

COLUMN: 先生紹介 ▶ 藤塚 貴史 (今津教室)



初めまして。開智総合学院今津教室所属の非常勤講師、藤塚貴史です。主に数学の授業を担当しています。私の21年間の人生の中で、最も多くのことを学んだのが予備校生時代なのですが、その際に学んだことを一つ紹介させていただきます。

私は高校卒業後、某大手予備校に入塾することとなったのですが、その講師の方々は一癖も二癖もある人が多く、何というか、世界が広がった気がしました。(笑)

その中でも数学講師のA先生がおっしゃっていた話が特に印象に残っています。

皆さんはRPGをプレイしたことがありますか?ポケモンやドラクエがそうなのですが、やったことがない方のために簡単に説明をいたしますと、RPGは自分がキャラを操作し、キャラが敵を倒すと経験値が手に入り、それが一定数たまるとレベルが上がってキャラが強くなるというようなゲームです。人生もそれくらい分かりやすかったら苦労はありませんよね?

例えば皆さんがもうすぐテストを控えているとしましょう。そこで数学の目標点を90点に設定すると、自分の目の前に数字が現れてその時間分勉強すると90点が取れる、といった感じでしょうか?大学入試に例えると、東京大学に入学するには4000時間、京都大学には3800時間を一年間で勉強すれば確定で合格する。というようなシステムであれば誰しもが勉強に身が入るでしょう。しかし現実はそのとおりではありません。極端な話、どれだけ勉強しても90点が取れない時

もありますし、大学入試ならなおさらです。勉強に対してモチベーションが保てないのはこれが原因だと思います。どれだけ努力しても…の部分モチベーションを大きく阻害しています。期日までに一定時間努力をすることで物事を達成することができるならば、大抵のことは容易に成し得てしまうでしょう。

では、我々は何事を為すにも常に暗中模索なのでしょう?極論はそうなのでしょうが、しかし、「経験」というものがその暗闇を照らす道標となります。ここではまず、自分を知ることが重要になります。私の経験上、勉強のタイプは人それぞれで、自分に向いている勉強法を知るところから始めるのが良いかと思えます。次に目標をより具体的に立てることです。目標は現状の自分が背伸びをしてギリギリ届か届かないくらい。そしてその目標に向けて死ぬ気で、全力で取り組む。最初は無計画でもむしろでも構わないと思えます。

この話を聞いた私は、そういえば自分は何かに必死に死ぬ気で取り組んだことがないということに気づきました。幸いなことに、受験生の時には模試という形でほぼ毎月のように実力を測れる機会があったので、早速次の模試に向けて死ぬ気になってみました。すると思っていたよりも成績は伸びませんでした。ですが先生は努力が思うように実らなかった際の解決法も提示してくれていました。

ここで多くの人は、「あれだけ頑張ったのに」と落胆し、次の機会では早々に見切りをつけてしまいがちなのですが、大事なのはこの後です。人は自分の失敗に目を向けることを嫌います。私自身もそうです。しかし、「なぜダメだったか」とい部分から目を背けていると、その努力が本当に無駄になってしまいます。

反省点は主に3つで、もっと努力できた。無計画だった。目標が大きすぎた。などでしょう。その全てを見直し、もう一度取り組むことで今度は前回の失敗を活かすことができます。つまり、この方法を活かすには最低2回は死ぬ気の努力を強いられます。ですが、その効果は絶大です。1度死ぬ気で頑張ると、いい意味で自分の底が見えます。底が見えれば、そこから逆算することで大抵のことを適切な努力で乗り越える力がつきます。また、私も痛感していることなのですが、人生が進んでいくにつれ、同じようなチャンスが訪れることは少なくなっているように感じます。たった1回のチャンスを確実に1回で成功させるには今までの経験が必須です。つまりは、中高生のうちに自分の底を知っておく経験はとても大事といえます。定期テストなどで努力ができるチャンスも多いですし、何より次に繋ぎやすいですからね。

そして、最近気がついたことなのですが、これが「勉強をする意味」の1つであるように思います。中学生時代は私自身もよく疑問に思っていました。「この勉強に何の意味があるのだろうか」と。ここで考えている「意味」の認識が少し違うのではないかと思います。正直、中学校で学ぶ学問はその学問の初歩も初歩であって誰に対しても意味のあるものとはいえません。大事なのはきちんと目標を持って努力をして、結果を出せる力を養えるかどうか。それも「自分の苦手な科目に対して」です。

私の短い人生ですら既に自分の苦手なことに対しての努力をせざるを得なくなった状況が何度かあります。その時のため、というときさか都合が良すぎるかもしれませんが、努力とその結果を出すサイクルづくりを中学生、高校生のうちに身につけておくのもいいかもしれません。

が完成します。

いちばん大変だった1ページは、「分数÷分数」を理解してもらおうページです。「分母と分子をひっくり返してかけましょう!」と言えば1行で終わりますが、それでは意味がありません。なぜ、分母と分子をひっくり返してかけるのか、「なるほど!だからそうなるのか!!」というヒラメキをその1ページで起こさなくてはなりません。どの参考書を見ても、高学年用の説明ばかりで少しも参考にならないし、ちょっと前に進まず、イライラすることもしばしばありました。そんな時、「ジャーン!」と登場するのが総監督岡本先生!高敷教室開校や、冬期講習でどんなに忙しい中でも人里離れた本部事務所に定期的に「何か聞きたいことはないか」と顔を出してくれます。そしてもう一人の救世主は、今福教室長の川西先生。時々、大量のプリンを本部に差し入れしに来てくれます。なぜ、いつもプリンなのかは謎です(笑)。

新学年が始まる3月から、このアドバンスシリーズをリリースする予定ですが、実は何人かの生徒達に早速使ってもらっています。内容は難しいと思いますが、皆黙々と解いている姿を見るとうれしく思います。また、「ここは難しくしたところ」というページでは、しっかり悩んでくれています。しめしめと思っています。先行してアドバンスシリーズをやっている生徒達に共通していること…「難しい」と言いながら、皆、顔は笑ってるんです。おかしいでしょ?

全て手書きで作成!
後は印刷会社の人が作成してテキストにしてくれます。▶



ます。そんなハイレベルなテキストなのですが、実は「先生はあまり教えない教材」になっています。アドバンスの前のシリーズの、プライマリーとプログレスの学習を終えてきた子供達は、このアドバンスシリーズにたどり着く頃には、もう先生が教具などを使ってあまり教えずとも自分の持っている知識をふんだんに使って、問題を解く方法を自分で見つけ出していけるようになっていきます。どうしても分からないときに先生はうまくヒントを与えるだけです。

■2月15日(土)・22日(土)は新年度の入塾説明会・テストを実施します。新小4～新中3生で当塾に入会をご希望の方は、お電話でご予約ください。
■3月11日(水)は大阪府公立高校一般入学者選抜日、合格発表は3月19日(木)です。受験生の皆さんあと少し。最後の最後まで頑張ろう。
■3月11日(水)より新年度授業がスタートします。

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター



【本 部】
城東区今福西2-1-8モデラトWASHIMI 201
TEL.06-6939-0008

【今福教室】
城東区今福西 2-9-20
TEL.06-6934-4662
【諸口教室】
鶴見区諸口 4-14-9-1F
TEL.06-6912-3984
【今津教室】
鶴見区今津南 1-6-2-1F
TEL.06-6167-9722
【カイチ予備校】
城東区今福西 1-10-17
TEL.06-6935-2220
【万緑会】
天王寺区上本町 6-9-10-3F
TEL.06-6772-5011

【今福第2教室】
城東区今福西 2-16-8
TEL.06-6931-2000
【関目教室】
城東区関目 4-6-17-2F・3F
TEL.06-6934-8117
【古市教室】
城東区古市 3-21-8
TEL.06-6931-0467
【エニグマ】
中央区谷町 9-4-5-3F
TEL.06-6777-1563



高木 秀章(塾長)

試験会場に持って行けるのはやるべきことをやったという自信だけ



暖冬だと言われていましたが、2月に入り寒い日が続くようになり皆さん体調はいかがですか。世間ではインフルエンザも流行り始め、何より中国からのコロナウイルスが心配です。

有効な予防はマスクと手洗い、うがい、さらにアルコール性消毒液を用いた消毒だそうです。マスクやアルコール消毒液が品薄で買えない事態になっていると聞きます。手洗いに関しては石鹸で20秒以上でもよいそうです。みんなで意識することで予防の効果は相乗的に上がりますので、意識して行いましょう。

このGROWINGが皆さんに届く頃はちょうど私立入試が終わり結果が戻ってきている頃だと思います。中には、下のクラスに回し合格になった、不合格で1.5次を受けなければならないなど不安の中にいる人もいるかも知れません。

「なぜ自分だけ…」と落ち込む気持ちや、腹立たしい気持ちがあると思いますが、すぐに次の受験が待っています。

先生達と落ち着いて、問題点を整理し、1つ1つ潰していきましょう。残念ですが、落ち込んで、イライラしても現実が変わりません。現実を変えるのは自分と向き合い、粛々と努力する姿勢だけです。

私立に合格した人達も1ヶ月後には競争率が1.2倍～1.6倍、20%～30%の受験生が不合格になる厳しい公立入試が控えています。

各教室では毎週土曜日に公立高校の過去問題で大手予想模試が実施され、翌月曜日には内申が考慮された状態で合格ラインとの点数差が発表されます。もしかすると周りほとんど合格点が取れだして自分だけが取り残されるかも知れない。不安と焦りの中で心が揺れ動くかも知れません。

でも、不安を感じるのは現実を見つめている証拠です。自分の目指す合格点と自分の現状の差を把握し感じている証拠です。そんな時は落ち着いて、具体的にどのような努力をするべきなのかを論理的に考えましょう。得点差が15点なら各教科で各3点。時間配分を整理し、見直し箇所を事前に決めておくだけでも十分埋められます。弱点単元があるのならやり慣れた実練やウインパスで復習すれば点数は伸ばせます。

先日、関目に授業見学に行くついでに福井先生が宿題の答えを写した中2生に「宿題を忘れたなら正直に言って居残りやりなさい。自分に嘘をつくのが一番いけない。来年の今頃迎える受験では自分一人。持って行けるのは、やるべきことをやったという自信しかない。」と話していました。

試験会場に持って行けるのは努力に裏づけられた自信だけ。

まだ1ヶ月ある。まだ、やれる。最後の最後まで粛々と努力し自分を伸ばせないかと工夫し続ける。それが合格の最大の秘訣であり、人生を力強く生きる秘訣でもあると思います。

【保護者の皆様へ】

私立入試お疲れ様でした。記事にも書いたように子供達の受験勉強は更に厳しい公立受験へと移っていきます。毎週のテストで不安定になることもあると思いますが、目一杯の愛で彼らを見守り励ましてあげてください。どんなに不安で疲れていても、彼らが心身ともに休める場所をご家庭です。あと1ヶ月、私たちが精一杯指導してまいります。心配事などありましたら遠慮なくご相談ください。

カイチからのお知らせ

■2月15日(土)・22日(土)は新年度の入塾説明会・テストを実施します。新小4～新中3生で当塾に入会をご希望の方は、お電話でご予約ください。
■3月11日(水)は大阪府公立高校一般入学者選抜日、合格発表は3月19日(木)です。受験生の皆さんあと少し。最後の最後まで頑張ろう。
■3月11日(水)より新年度授業がスタートします。

Focus



CLASSROOM REPORT 教室レポート

大学入試で勝負を分けるのは「情報」と「戦略」

熊谷 真宏 (カイチ予備校)

大学入試というと、生徒の皆さんにとって、保護者の方々にとっても、まだまだ先のこのように感じられると思います。しかしながら、この4月に**高校に入学する中3生が、実は2年後にはすでに大学受験に突入するという事実**に気付いている方はどれくらいいるでしょうか。中2生は3年後、中1生は4年後。そう考えると、決して遠い話ではないということが分かります。今回は、いまの大学入試制度について詳しく書いていきたいと思ひます。長文になりますが、ご一読いただければ幸いです。

このGrowingが配布される2月の中旬は、1月下旬から始まった私立大学の前期試験が概ね終了し、その合否判定が連日発表される時期です。そして2月下旬には国公立大学の前期試験、3月には私立大学と国公立大学の後期試験があります。複数の大学を受験することが出来る大学入試においては、1週間毎日びっしり入試で埋まっているという生徒も珍しくありません。

保護者の方々にとって大学入試といえば、主に1月中旬のセンター試験と、その後続く私立大学の一般入試と国公立大学の入試を思い浮かべる方が多いと思いますが、実は大学入試は昨年の夏休みあたりからすでに始まっています。一番早い方式が**AO入試**です。AOとは「アドミッション・オフィス」の略で、これは各大学が求める人物像に合った生徒を集める目的で、**小論文や面接などで人物評価をする制度**です。時期としては早いところで6月からエントリーが始まり、7月～9月のオープンキャンパスの時期に面接や試験を行うところが多いです。学力だけではなく、生徒を多面的に評価してもらえる制度なので、早い段階で目標とする大学が明確に決まっている生徒にとっては狙い目の入試です。

次に早い時期に行われるのが推薦入試で、これは指定校推薦と公募推薦の2種類あります。指定校推薦の選考は夏～秋にかけて、公募推薦入試はだいたい10月下旬～12月にかけて行われます。

指定校推薦とは多くの私立大学で実施している制度で、**大学側が指定する高校に対して一定の推薦枠を与えるもの**です。入学試験は行われず、校内選考(通知表の成績と面接)のみで判断されます。大学側が高校を信用して合格者の枠を用意しているようなものなので、校内選考に通れば、よほどのことがない限りまず合格できます。ただし、指定校推薦は専願であることが前提な

ので、合格してしまえば辞退することはできません。もし辞退するとすると、たとえ本人は辞退できても、次年度以降の推薦枠が減らされたり、最悪の場合は推薦枠がなくなる可能性もあります。

次に、**公募推薦入試**ですが、こちらは**各大学ごとの出願資格を満たし、かつ高校の学校長から推薦をもらえれば、誰でも受験が可能な制度**です。出願資格として評定平均値の基準を設けている大学もありますが、最近では特に基準を置いている大学も多いため、以前と比べると受験する上でのハードルが下がり、受験者数が大幅に増えています。実際、私立大学や短大においては、公募推薦入試の入学比率は約4割を占めていると言われており、競争も激化しています。また、本命の志望校よりもレベルを下げて、滑り止めの大学を確保するという位置づけで受験する生徒も少なくないことから、合格するのはかなり難しいというのが実情です。カイチ予備校の高3生もほぼ全員が公募推薦入試を受験しましたが、合格したのは2割程度です。特に今回は2020年度からセンター試験が廃止されて新しいテストに移行するという事情もあり、浪人を避けたい安全志向の生徒が増え、かなりレベルを落として受験する生徒が増える傾向にありました。また、大学側もこの傾向を予測していたと見え、入試問題そのものも例年よりも難化していたところが多かったのです。その結果、合格者平均点がだいぶ高くなり、より一層合格するのが難しくなっていたということが言えます。

そして次に、1月中旬～3月にかけて行われるのがセンター試験と一般入試です。**センター試験**については、2020年度から大学入学共通テストという名称に変更し、国数英の試験内容も大幅に変わるということを先月のGrowingで取り上げさせていただきました。毎年約50万人以上が受験するこの試験では、全員が同じ問題を一齐に解きます。特に**国公立大学**を目指す人は必ず**受験しなければならない試験**であり、事実上の1次試験と考えていただいで結構です。

一般入試とは、各大学で作成した**入試問題を用いた試験**のことを指します。国公立大学は「前期」「後期」の2種類のところが大半で、中には「中期」を実施する大学もありますが、私立大学はさらに「センター利用」と「PC」という方式を実施しているところもあります。センター利用というのは、その大学独自の入学試験を受験せずに、センター試験の成績のみで合否判定をしてもらえる

という方式です。必要な受験科目を満たしていれば、その大学の複数の学部をまとめて合否判定してもらうこともできますし、複数の大学で利用することもできるので、非常に効率がいい方式と言えます。ただし、センター利用で合格できる定員は非常に少ないので、かなりの高得点を取らないと合格は難しいと言えます。次に、PCというのは「プラスセンター」のことで、大学の独自試験で受験した科目の点数と、センター試験で受験した科目の点数を総合して合否判定する方式です。こちらもセンター試験で高得点を狙える生徒にとっては有利な方式と言えます。

さて、ここまで大学の入試制度について一通り説明してきましたが、大学入試がいかに複雑であるかということについてはご理解いただけたかと思ひます。では、この複雑な大学入試において合格を勝ち取るために必要なものは何か?—それは、「情報」と「戦略」です。

「情報」の重要性については、これまでの入試方式の説明だけでも十分お分かりいただけるかと思ひます。「戦略」とは、具体的には学部ごとの入試問題の傾向を把握し、その内容とレベルに合わせた教材を用いて、どのようなスケジュールで勉強を進めていくかということになります。高校入試においては全ての生徒が同一の問題を受験するため、内容は同じですし、使う教材も各生徒が目指す高校のレベルによる差異は多少あっても、基本的にはそこまで大きく変わらないと言えます。しかし、**大学受験では大学ごとに入試問題が異なるだけでなく、さらに同じ大学の中でも学部ごとで問題が異なります**。複数の大学を受験する場合、それぞれに合わせた対策を行っていく必要があるため、**限られた時間をどの勉強にどれくらい充てるのかという戦略を練ることが非常に重要な**のです。予備校が最も重要な役割を担っているのは、まさにこの部分であると言えます。

繰り返しになりますが、大学入試に必要なのは「情報」と「戦略」。カイチ予備校では高1の時期から様々な大学入試情報を共有することで、大学受験の準備をサポートしています。また、小人数の集団クラス指導がメインなので、一人一人に対して細かい戦略のアドバイスをしっかりと伝えることができます。大手に比べると規模はずっと小さいですが、中身では決して負けていません。この春、新たに高校に入学される生徒の皆さんとカイチ予備校でお会いできることを、心より楽しみにしています。

Education



KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

公立高校入試対策の秘訣

熊谷 周作 (今津教室)

とうとう受験シーズンの到来です。2月10日(月)には私立高校の入試があり、2月20(木)・21日(金)には公立高校入試の特別入学者選抜、3月11日(水)には公立高校入試の一般入学者選抜があります。各学年の生徒は、診断テストに、模擬テストと日々の勉強に動いていると思いますが、中学3年生はその日々の勉強の集大成となる高校入試です。今日は公立高校入試までどう取り組みればいいかを書いていきます。



1. 公立高校入試の傾向と対策

大阪府の入試問題は年々変化しており傾向が変わる部分もありますが、私立入試と大きく違う点は、リスニングや、英作文、小論文、資料を読み取る問題などがあり、これらの対策をしっかりとすることにより合格が近づきます。英作文や、小論文は書けばいいというものでもありません。一つ一つの課題をやり抜くことが重要です。1つのお題に対して、きちんと仕上がるまで担当の先生と添削をし続けることが上達への近道となります。リスニングが苦手な生徒は、リスニングを毎日練習してください。教室にしかないCDもあるので、必要な時は各教室の先生に声をかけて、練習する機会を作って練習に励んでください。



2. 弱点箇所の徹底克服

この時期には大予想模試と称して、各教室では本番に似せた模試を毎週土曜日に行います。この結果の張り出しから合格まで何点必要かを確認し、次のテストまでに弱点箇所の克服を行なっていきます。ここで大事なことは直しの徹底です。間違えた問題の直しをするのは当然ですが、わからない箇所をしっかりと質問をする。中途半端な理解で終わらないように理解し、一人で解ける段階まで練習をする。間違い直しをしているけど、なかなか点数が上がってこない…という人は、もう一度、間違い直しを完璧にやり抜けているか、勉強の仕方を見直し、同じような問題は2度と間違えないという心構えで、受験勉強をしていくことが必要だと思ひます。



3. 体調管理が大事

体調管理を怠ると何日も寝込まなくてはなくなり、計画を遂行することができなくなります。計画が遅れると、不安も広がり、毎日、ストレスを抱えながら過ごすといけなくなります。体調が優れない時には、無理をせずに休むことも大事になってきます。受験間際だからといって、焦って夜遅くまで起きていたりするのはマイナスになってしまうので、普段通りの勉強を貫くことが大事になってきます。



最後になりますが、受験生・保護者の皆様は大予想模試の結果で一喜一憂すると思ひますが、「絶対に自分は合格をして、〇〇高校に通うんだ。」という気持ちで、合否の分かれ目となることを忘れないでください。昨年度今津教室から受験した生徒達は全員合格できました。しかし、入試での得点を聞いていると、合格最低点より1点上回っただけの生徒や、10点上回っただけの生徒もおり、紙一重のところ全員合格できたように思ひます。この紙一重を制することができたのも、大予想模試で不合格判定がでて、最後まで気持ちで負けることがなかったからです。点数が悪くて落ち込むこともあると思ひますが、合格するためにはと考えると、今何をすべきかを考え動くことができれば、最後には良い結果が得られると思ひます。



残り一か月精一杯のサポートを行いますので、もし不安な点があれば、各教室にご相談いただければと思ひます。

